ヌーベルアージュ

スタッフ育成環境を整備

多様な働き方が可能に

新橋駅前スタジオのエントランス

ハイブリッドMA

ヌーベルアージュ（東京都港区）は、新橋駅前ビル1号館に本社およびスタジオを構え運営。スタッフの教育や育成を考えた体制づくりに着手している。

新橋駅前ビルには2015年秋に移転した。約1000平方㍍の広さに、ノンリニア編集室4室、リニア編集室7室、MA室4室を配し、効率よく作業できる。運用管理部の杉本伸一部長は「1フロアで設備を構築できる広い建物を探していた。駅前という立地で顧客の利便性が増したほか、機材を管理しやすく、社員同士がコミュニケーションを取りやすい利点がある」と話す。

MA室の1つ「ハイブリッドMA」は、MAおよびビデオサテライト機能による映像編集が可能。4Kまで再生でき、将来的には4K編集もできる。

杉本氏は「双方の作業を可能にすることで、『MAはできるが編集ができない』など稼働率に差がある場合に対応しようと考えた」と説明。同時に、「今後、編集やMAを1人で仕上げる人材が求められるのではないかと考えた。4Kへの取り組みに加え、時間のあるときに機材を試せるような環境とした」としており、MAおよび編集を手掛けられる人材を育成したいという。

同社はこれに限らず、スタッフが複数の選択肢からキャリア形成を考えられるよう、2015年から環境整備を進めている。

新橋事業本部本部長である山岡隆一取締役は「これまで編集アシスタントの後はエディターになるのが一般的だったが、（番組の決まりものや、タイトルを作成する）デザイナーになることが可能。勤務時間も選択することができる」と話す。

同社では現在、女性が約39%、編集部門だけだと約61%を占める。24時間勤務は体力が続かないという声を受け、長期間無理なく働けるよう、徹夜明けに休みを1日多く取れる特別シフトを試験的に設定。勤務3年目以降の女性従業員に適用し、数人が選択している。徹夜明けに浴室を利用できるよう、マンションの部屋を借り従業員のリフレッシュを図る。

エディターを志望するアシスタントへの教育も強化。新橋駅前ビルスタジオでは、より広く編集作業の流れを見られるよう、スイッチャー側に席を設けるなど編集室内の配置を工夫した。仕事の多かった月の翌月は業務を制限するなどの管理もしている。

山岡氏は、「昨年から今年にかけて社員数がほぼ倍増しており、より長く、社員として充実して働いてもらえるようさまざまな手段を講じている」とする。「グループ会社にはポストプロダクション以外の業務があり、派遣勤務も選べる。会社に在籍したままさまざまな選択を考えられるよう整備している」という。

今秋、8K編集室を開設

同社はまた、4K／8K映像の制作に備える「4K／8K準備室」を渋谷スタジオ内に設け、さまざまな活動を実施。撮影から仕上げまでの案件の相談も受けており、今秋、8Kまで扱える設備を構築する。既存のノンリニアシステムを使った4K作業で課題となった、インジェストやデジタイズ機材の拡充や、サーバーの検討も進めている。

斑目達也執行役員技術部長は「今回の対応は、顧客からの要望があるのと同時に、新しいことにチャレンジできる体制を作ることで、社内のモチベーションアップにつなげるのが目的だ」と話す。データを管理できるスタッフの育成や、カラーグレーディングの体制についても、業務の拡大につながるものとして、積極的に考えていくという。